

【成果報告書 1：海洋教育のデザイン】

1. 学校名 関西大学北陽高等学校
2. 活動テーマ名 アマモから繋がる大阪湾再生
3. 実践の概要・ねらい

本校は、2017 年度より海洋教育パイオニアスクールプログラムに参加させていただき、NPO 法人環境教育技術振興会/NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センターご協力の下、阪南市立西鳥取小学校と協働で「アマモ場再生」に取り組んでいる。2018 年度においても、大阪湾について学ぶ、アマモ移植によるアマモ場拡大、海を大切にする資質や能力の育成、出前授業、アマモサミット参加を通じて持続可能な地域づくりにつながる人材の育成、これらのプログラムを継続的に実施しながら、より多くの生徒が海洋環境を学べるカリキュラムの開発と、海洋保全に対する意識を高め対外的に発信できる人材の育成に取り組む。

4. 実践計画

日付	活動内容
5 月 15 日	<p>① 大阪湾生き物調査</p> <ul style="list-style-type: none">・私たちの知らない大阪湾の魅力を発見する。・生息する生き物を知り触れ合い、大阪湾を大切に思う心を育成する。 <p>② 評価：悪天候のため中止</p> <p>① アマモ苗移植</p> <ul style="list-style-type: none">・西鳥取小学校 3 年生にアマモ場の役割を屋外で指導する。・海に入りアマモ場に生息する生き物観察を行う。 <p>②評価：海洋教育に配慮した望ましい働きかけができる技能・思考力・判断力を身に付けることができた。</p>
6 月 15 日	<p>① アマモ花枝採取／磯観察 ※台風のため小学生との活動は中止となり別日に実施した。</p> <ul style="list-style-type: none">・花枝採取の方法を学び小学生に指導する。・現地の小学生との交流を図る。 ※台風のため活動は中止・地引網を行い、アマモ場の生き物調査を行う。 <p>②評価：アマモの特性やアマモ場の特性を深く学ぶ機会となった。</p>
7 月 10 日	<p>①海洋実習（シュノーケル）</p> <ul style="list-style-type: none">・海辺の危険や、海遊びのリスクマネジメントを学ぶ。・実習を通じて、安全にシュノーケルをする能力と指導方法を身につける。 <p>② 評価：海の安全に関する知識を身に付けるとともに、大阪湾をより深く知る機会となった。</p>
9 月 9 日	<p>① 大阪湾の魅力を伝える ※地域活性化の活動に参加</p> <ul style="list-style-type: none">・地域の方に大阪湾の魅力を伝える。・海の安全教室を通じて、海辺の危険や、海遊びのリスクマネジメント伝える。 <p>② 評価：海洋教育に配慮した望ましい働きかけができる技能と思考力・判断力を身に付けることができた。</p>

9月11日	<p>①学習会／種子選別</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生にアマモについて楽しく学んでもらう。 ・小学生との交流を通じてプレゼンテーション能力を養う <p>②評価：積極的に小学生と関わりを持ち行動することができた。</p>
11月2日～4日	<p>① アマモサミット in 阪南 ※地域カンファレンス実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生との活動報告及び「アマモ場再生」の意義を、パネルや劇で発表する。 ・他校の発表を聞き、次年度の活動課題を発見する。 <p>① 評価：市区町村、都道府県を越える広域との連携や海洋教育の理解を深める情報発信ができた。</p>
12月15日	<p>① アマモ苗床づくり／アマモ播種 ※台風の影響で阪南市の小学生との活動は中止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「出前授業」の実施 対象：大阪市の小学生1年生～5年生、併設中学校の中学生1年生～3年生 ・活動報告を通じて、大阪湾・アマモ場再生に興味を持ってもらう。 ・苗床作りを行い、大阪湾を大切に思う心を育成する。 ・海洋教育活動指導者の育成。 <p>評価：海洋教育への理解を深め、リーダーとして積極的に行動できるようになった。</p>
2019年 3月9日	<p>① 大阪湾フォーラム ※関西大学北陽高等学校料理部に協力を依頼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・料理部の活動補助：大阪湾の魚を使ったレシピ開発 2018年度6月より開始 <p>評価：校内での活動理解と協力体制を整えることができ、活動範囲を広げることができた。</p>

5. 今年度の実践

①計画からの追加・変更点

本年度は台風や大阪北部地震により活動計画を大幅に変更しなければならない状況となり、阪南市で開催されたアマモサミットを中心に活動を行うこととなった。その状況下で無事に活動を続けることができたのは、協力団体や活動参加校の協力があつたからである。また、2017年度から繋がりのある阪南市立西鳥取小学校とは、アマモサミットにて活動報告を共同で行い高い評価を得ることができた。

さらに、校内における海洋教育の理解を深める活動として、料理部に「大阪湾の魚を使ったレシピ開発」に協力していただき、アマモサミットや大阪湾フォーラムにて試食会や商品開発を行った。

② 実践の成果

大阪湾が自然豊かな海であることを理解し、海洋教育を身近なものとして自主的・積極的に環境保全活動に取り組める能力を養いながら、学校や地域における環境教育プログラムの構築に向けて活動することができた。また、現地での調査や児童との関わりを通じて、海洋教育を安全に行うために必要な知識、環境保全への責任ある行動ができる態度の育成、環境問題を多くの人に伝えていくために必要な技能を修得し情報発信を積極的に行うことができた。

③ 次年度の課題

次年度以降も本活動を継続し持続可能な社会の担い手の育成に積極的に取り組みたいと考えている。また、本年度の問題点であった自然災害を含む自然現象への危機管理能力を高めたいと考えている。

6. 主な連携機関

協同実施団体 : NPO 法人環境教育技術振興会／NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター 岩井 克巳氏

下荘漁業協同組合、西鳥取漁業協同組合

協力校 : 阪南市立西鳥取小学校、阪南市立舞小学校、阪南市立下荘小学校、大阪市立新庄小学校、関西大学北陽中学校

『アマモから繋がる大阪湾再生』

【実践のねらい】

2017年度は大阪府で唯一アマモが生存している泉州地域でアマモ場再生活動に参加し海洋を身近なものとして捉え、自主的・積極的に海洋教育に取り組める能力や、現地での調査、児童との関わりを通じて海洋教育を安全に行うために必要な知識、危機管理能力を身に付ける活動を行った。2018年度はさらにそれらの能力を伸ばすとともに、幹事校として阪南市の小学校3校と活動を行いながら、海から離れた大阪市内の小学生にも「出前授業」を行い、海に近い地域の海洋教育普及だけでなく、地区町村や都道府県を越える広域との連携を積極的に行い海洋教育への責任ある行動をとることができる態度や、海洋問題を多くの人に伝えるために必要な技能の習得を目指す。

【主な連携機関と内容】

- ・NPO 法人環境教育技術振興会 岩井克巳氏
- ・NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター
- ・下荘漁業協同組合
- ・西鳥取漁業協同組合

○時数 4月～3月 160時間（特別活動時間 148時間 保健体育7時間 LHR5時間）

○目標 ①海洋実習を通じて、海の様子や生き物観察を行い海洋教育への関心を高め、海洋保全に配慮した望ましい働きかけができる技能や思考力、判断力を身に付ける。

②地区町村や都道府県を越える広域との連携を行いながら、海洋教育プログラム開発と発信を行い海洋教育活動者の育成をする。

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
調査的		1 大阪湾を知る ①大阪湾生き物調査 ・生き物の発見 ・大阪湾を大切に思う心の育成			1 海と繋がる ① 海の安全教室 ・海辺の危険や、海遊びのリスクマネジメントを学ぶ。				①修学旅行 環境学習「マングローブ」について学ぶ。			
探求的		②アマモについて学ぶ ・アマモの生態やアマモ場の機能について文献で調査する。 ・グループで資料を作成する。			②海洋実習 ・シュノーケル実習：大阪湾でシュノーケル実習 ・指導方法を身に付ける					2 リーダーの育成 ①活動報告書の作成 ・資料作成、パワーポイントの作成		
実践的		③アマモ花枝採取 ・花枝採取の方法を学ぶ。 ・現地の小学生との交流 ・地引網 アマモ場の生き物調査			③アマモサミット参加（地域カンファレンス） ・地域の方に大阪湾の魅力を伝える・海の安全教室を開催する ④「出前授業」学習会／種子選別／苗床作り ・小学生に指導する				① 修学旅行 環境学習「マングローブ」植樹体験	②大阪湾フォーラムに参加 ③校内発表 ・活動報告を行う		

【成果報告書3：地域カンファレンス報告書】

1. 開催日時 2018年11月2日（金）～4日（日） ※3日（土）14：15～
2. 場所 阪南市立サラダホール大ホール
3. プログラム／内容
- | | | |
|-------|-----------------------------|--------------------|
| 14：15 | 「波有手のアマモ場再生」 | 阪南市立西鳥取小学校 |
| 14：30 | 「小学生との絆はアマモ～アマモで繋がる人と海と人と人」 | 関西大学北陽高等学校 生徒会 |
| 14：55 | 「アマモ場づくりをはじめて」 | 阪南市立下荘小学校・阪南市立舞小学校 |
4. 参加者総数 85名

5. 成果

本活動は大阪府で唯一アマモが生存している泉州地域でアマモ場再生活動を行い、海洋を身近なものとして捉え自主的・積極的に海洋教育に取り組める能力を育むことを目的としている。そこで2017年度は現地での調査、児童との関わりを通じて海洋教育を安全に行うために必要な知識、危機管理能力を身に付けることができた。2018年度はさらにそれらの能力を伸ばすとともに、幹事校として阪南市の小学校3校と活動を行いながら、海から離れた大阪市内の小学生に「出前授業」を行い、海に近い地域の海洋教育普及だけでなく、地区町村や都道府県を越える広域との連携を積極的に行った。そして、これらの活動を通じて環境への責任ある行動をとることができる態度の育成や、環境問題を多くの人に伝えるために必要な技能を習得することができた。

しかし、本年度は台風や大阪北部地震により活動計画を大幅に変更しなければならない状況となり、阪南市で開催されたアマモサミットを中心に活動を行うことに変更した。その状況下で無事に活動を続けることができたのは、協力団体や活動参加校の協力があつたからである。また、2017年度から繋がりのある阪南市立西鳥取小学校とは、アマモサミットにて活動報告を劇で行い高い評価を得ることができた。

今後も、さらに活動の領域を広げ継続的にプログラムを実施し、より多くの生徒が海洋環境を学べるカリキュラムの開発と、環境保全に対する意識を高め対外的に発信できる人材の育成に取り組むと考えている。

6. 主な連携機関

協同実施団体： 阪南市
NPO 法人環境教育技術振興会／ 岩井 克巳氏
NPO 法人大阪湾沿岸域環境創造研究センター
NPO 法人共存の森ネットワーク
せんなん里海公園管理事務所
下荘漁業協同組合、西鳥取漁業協同組合

協力校： 阪南市立西鳥取小学校、阪南市立舞小学校、阪南市立下荘小学校、大阪市立新庄小学校、関西大学北陽中学校